

## マタイ受難曲 BWV244 歌詞

### 第2部 第30-68曲

大祭司の審問 ペトロの否認 ユダの最期 判決  
十字架 イエスの死 埋葬と哀悼

アリア、合唱

30 わたしのイエスは連れさられた アリア・アルト、合唱

ああ、わたしのイエスは連れさられた。

-愛する方はどこに、いとうるわしいお方  
いとうるわしいあなたを  
みとどけることができるだろうか。

-愛する方はどこに  
わたしの小羊、トラの爪にかかり、  
ああわたしのイエスはどこにいつてしまわれたのか。  
-私たちはイエスをさがしましょう。  
それではさがしましょう。  
ああ、いかに答えるべきか。  
わたしのイエスはどこに行つたと答えるべきか。

31-37 大祭司の審問

31 またイエスを捕らえると 朗唱

またイエスを捕らえると、大祭司カイファのもとにつれて  
行った。そこに律法学者たちや長老たちがいた。  
ペトロは離れて大祭司の屋敷の中庭に行き、このなり行き  
を見ようとして、下役たちと座っていた。  
祭司長や長老たちは全員死刑にしようとイエスに不利や証言  
を求めたが、得られなかった。

32 世は私を罠にかけた コラール

世は私を罠にかけた。うそと作り話で  
いつわりと秘密の網をしかけた危機をも  
主よお守りください。

33 偽証が多くなされたが 朗唱

また、偽証が多くなされたが証拠は得られなかった。  
最後に二人の偽証人が告げた。彼は言った。  
「わたしは神殿をうち倒し、三日あれば建てることができ  
る」と言っていました。  
大祭司は立って言った。  
「答えないのか、この証言に」  
イエスは黙っていた。

34 イエスは沈黙していた 朗唱・テノール

イエスは沈黙していた  
身代わりになり苦しみをうける決意を示して言われた。  
「あなた方は迫害にあつても沈黙を守るように」と。

35 忍べ無実の罪を アリア・テノール

忍べ 偽りの証言がわたしを突き刺す時  
無実の罪を着せられ、嘲りと屈辱を受ける時も  
愛する神は無実の罪を晴らしてください。

36a-c 大祭司はイエスに問うて言った。

a 大祭司はイエスに問うて言った。 朗唱

「生ける神に誓って答えよ。  
お前は神の子キリストなのか？」

イエスは言った。

「あなた方にいう。やがて人の子が神の右に座り、  
天の雲に乗ってくるのを見るだろう。」

大祭司は服を引き裂き言った。

「神を冒瀆した。ほかに証拠があるか。

見よ彼は神を冒瀆したと思わないか」

彼らは答えて言った。

b 彼は死罪に 合唱

「彼は死罪に」

c 彼らはイエスにつばをはき 朗唱

彼らはイエスにつばをはき、こぶしで殴り、  
また平手で打ちながら言った。

d 殴つたのはだれか言いあてよ 合唱

「キリストを殴つたのはだれかいいあてよ」。

37 だれがこんなに打ちつけたのか コラール

だれがこんなに打ちつけたのか

わたしたちのような罪や過ちを知らないイエスを  
苦しめたのは。

38-40 ペトロの否認

38a そんな人を知らない 朗唱

ペトロは庭で座っていた。そこに女中が来て言った。

「ガリラヤのイエスと居たのを見た」

彼は否定して言った。「なんの事か」

彼が門のほうに行くと、

他の女中がそばにいる人たちに言った。

「彼はナザレのイエスと居た。」

彼はまた誓って否定した。「そんな人を知らない」

するとそこにいた人たちが近寄ってペトロに言った。

b 確かにお前も彼の仲間だ 合唱

「確かにお前も彼の仲間だ 言葉づかいでわかる。」

c ペトロは激しく泣いた 朗唱

そこでペトロは誓いはじめた。「わたしは知らない」。

するとにわとりがないた。

ペトロはにわとりが鳴く前に三度、わたしを知らない

というだろうというイエスの言葉を思い出し、

外に出て激しく泣いた。

39 あわれみたまえ アリア・アルト

あわれみたまえ わが神よ

わが涙のゆえに あわれみたまえ

私を見てください。心も目も激しく泣いています。

40 あなたを離れても コラール

あなたを離れても再びもどってきます。

死の苦しみと恐れからイエスがあがなわれたので、

私は罪を認めます。

あなたの恵みと慈しみとは私の罪より大きいのです。

#### 41-43a ユダの最期

##### 41a-c ユダは銀貨を神殿に投げ

###### a 夜が明けると 朗唱・合唱

夜が明けると祭司長や長老たちはイエスを殺そうと相談した。イエスを縛りつけていき総督ポンテオ・ピラトに引き渡した。

イエスを裏切ったユダはイエスに有罪判決が下りたのを知って後悔し、銀貨30枚を返そうとした。

「私は罪なき人の血を売り渡した。」

彼らは言った。

###### b 関係ない自分でしろ 合唱

「関係ない自分で(処分)しろ」

##### c ユダは銀貨を神殿に投げ 朗唱

「ユダは銀貨を神殿に投げ、そこを立ち去り、首をつって死んだ。

だが祭司長たちは銀貨を拾い、言った。

「これは血の代価なので神殿の献金箱にいれるわけにはいかない。」

#### 42 かえせ私のイエスを アリア・バス

かえせ私のイエスをもとにかえせ。

見よこれが人殺しの金だ。

この放蕩息子は人殺しの金を投げ返した。

#### 43 彼らはその金で陶器師の畑を買い 朗唱

a 彼らはその金で陶器師の畑を買い、外国人の墓とした。

この畑は今日まで「血の畑」と言われている。

こうして預言者エレミヤが言ったことが成就した。

彼らイスラエルの子らから買い受けたものの代金である。

銀貨30枚をもって陶器師の畑と引き換えに

これを買取った。

#### 43b-50d 訊問

b さてイエスは総督の前に立ち、総督は問いただした。

「おまえはユダヤ人の王か？」

イエスは答えて言った。「言うとおりに。」

祭司長や長老たちは告発したが、答えなかった。

ピラトはイエスに言った。「聞かないのか彼らの告発を」

イエスはもう答えられなかった。

総督も不思議に思った。

#### 44 行くべき道と心のわずらいを コラール

行くべき道と心のわずらいを 天を治める方の御手にゆだね

雲や大気に道をそなえ 開いていくように足を強められる。

#### 45ab 総督は祭りの時に 朗唱

a 総督は祭りの時に 民衆が望む一人の囚人を釈放していた。

そのころバラバという一人の囚人がいた。

人々が集まってくるとピラトは言った。

「どちらを釈放したいか。バラバかキリストと言われるイエスか」 ねたみのために引き渡したことを知っていたのである。

その時、妻からの伝言があった。

「あの人と関わらないでください。昨日の夢の中でうなされたのです。」

だが祭司長たち、長老たちはバラバを釈放してイエスを死刑にするように言った。

そこで総督は答えて言った。

「二人のうちどちらを釈放したいか」 群衆は言った。

「バラバを」 合唱

ピラトは言った。

「キリストと呼ばれるイエスはどうしてほしいのか。」

彼らは言った。

###### b 十字架につけろ 合唱

「十字架につけろ」

#### 46 なんと驚くべき罰か コラール

なんと驚くべき罰か

よき羊飼いは羊のために苦しみ、

正しい主人が身代わりに 負債を負うとは。

#### 47 ピラトは言った 朗唱

ピラトは言った。

「どんな悪事をしたのか」

#### 48 イエスはよいことをなされた 朗唱・ソプラノ

イエスはよいことをなされた。見えない人に光を与え、歩けない人を歩かせ、わたしたちにみ言葉を語り、悪魔を払い、悲しむ人を力づけ、罪人を迎え友とされた。

ほかになににもなされなかった。

#### 49 愛するゆえにわが主は アリア・ソプラノ

愛するゆえにわが主は死のうとしておられる。

なんの罪も知らないのに。

永遠の破滅と裁きの刑罰が私の魂に降りかからないように。

#### 50a-e 十字架につけよ 朗唱、合唱

##### a 群衆はますます叫び続けた 朗唱

群衆はますます叫び続けた

##### b 十字架につけよ 合唱

「十字架につけよ」

##### c ピラトは言った 朗唱

ピラトはそれ以上言っても無駄なばかりか、騒動になりそうだったので、水をとり、手を洗い、言った。「わたしには責任はない。自分でせよ。」

民衆はいった。

##### d イエスの血は 合唱

「イエスの血は我らとわれらの子孫にかかる」。

#### 50e-54 判決

##### e そこで彼はバラバを釈放し 朗唱

そこで彼はバラバを釈放し、

イエスを鞭で打ち、十字架につけるために引き渡した。

#### 51 憐れみたまえ アリア・アルト

神よ。主はしばられて鞭打ち、殴り、傷、

お前たちやめろ。この悲しみ、痛みを感じないのか  
ああ、お前たち 憐れみをもって、やめろ。

#### 52 わたしの心を用いてください アリア・アルト

ほおを流れる涙がなんの役にも立たぬのなら、  
私の心を用いてください。  
流れる血を心に受け、犠牲をささげる器となしてください。

#### 53a-c 兵士たちはイエスを つれて行き 朗唱・合唱

a 兵士たちはイエスを総督官邸に連れていき、  
兵士たちをまわりに集めた。  
衣服を脱がせ緋色のマントを着せた。  
茨の冠をかぶせ葦の棒をもたせ  
その前にひざまづき、侮辱して言った。 朗唱  
b 「ユダヤ人の王万歳」 合唱  
c また唾を吐き葦の棒で頭をたたき続けた。 朗唱

#### 54 血と傷と痛みにまみれたみかしら コラール

1. 血と傷と痛みにまみれたみかしら  
茨の冠うけ 辱められ  
いつも誉れに輝いたみかしら  
あざけられている 慕わしいみ顔。  
2. 気高いみかしら 世の力も屈した  
今はつばき受け 色失せておられる  
なんと青ざめ まなこを閉ざす  
恥ずかしげもなく 傷つけたのか。

#### 55-60 十字架

##### 55 イエスを侮辱したあと 朗唱

イエスを侮辱したあと マントを脱がせた。  
元の服を着せ、引いていった。  
十字架につけるため。  
兵士たちが出ていくとシモンというキレネ人と出あった。  
彼にイエスの十字架をかつがせた。

##### 56 われらの血と肉こそ 朗唱

われらの血と肉こそ 十字架につけられなければならない。  
魂によいものは肉には苦いものとなる。

##### 57 来たれ甘き十字架 アリア・バス

「来たれ甘き十字架」と私は言おう。  
私のイエスよ 私にいつも負わせたまえ。  
苦しみにあえぐ時に  
耐える力を与えてください。

##### 58 a-e ゴルゴタ

a 彼らがゴルゴタというところ 朗唱  
彼らがゴルゴタというところ、すなわちされこうべにつくと  
苦いあじの飲み物をのませようとした。  
イエスはのまれなかった。彼らはイエスを十字架につけくじ  
を引き服を分け合った。  
預言者が言った「私の衣服をくじを引いて分け合った」こ  
とばが成就するためである。  
彼らはそこで見張っていた。イエスの頭の上には罪状書きが

掲げられ、こう書いてあった。  
すなわち「これはユダヤ人の王」。  
そこで二人の強盗がイエスの右に一人、左に一人つけられ  
た。

通りかかった人は頭をふりながら言った。

##### b 神の子なら自分を救え 合唱

神殿を倒し三日で建てる者よ  
神の子なら十字架からおりて自分を救え

##### c 祭司長たちも 朗唱

祭司長たち、また律法学者たち、長老たちもイエスをの  
のしった。

##### d 他人を救ったのに 合唱

他人を救ったのに自分を救え  
イスラエルの王ならば十字架から降りてこい、  
そうすれば信じよう。  
信じる神が彼を救うであろう。  
「私は神の子」と言ったのだから。

##### e 十字架の強盗達も 朗唱

十字架の強盗達もイエスをののしって言った。

#### 59 ゴルゴタよ アリア・アルト

ゴルゴタよ 不幸なゴルゴタ  
主はここでののしられ、死なれる。  
世の祝福と救いの主は呪われて、十字架にかけられる。  
天地の造り主は大地と大気を取り去られる。  
無実の人が死のうとしている。  
それが私を苦しめる。  
ゴルゴタよ 不幸なゴルゴタ。

#### 60 見よイエスは腕をのべ アリア・アルト

見よイエスは腕をのべ  
わたしたちを抱こうとしておられる。  
-きたれ- どこに-  
イエスの腕の中に 救いを、憐れみを求めよ  
ここに生き、ここに死ぬ。憩うがよい。  
憩え、見捨てられたひな鳥たち。  
とどまるがよい- どこに- イエスの腕の中に。

#### 61-65 イエスの死

##### 61a 昼の12時ごろ暗くなり 朗唱

昼の12時ごろ暗くなり闇が全地を覆った。  
3時まで続いた。3時頃イエスは大声で叫び、言われた。  
「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」  
それは「私の神なにゆえ私を見捨てられる。」  
という意味である。聞いた人は言った。

##### b エリアを呼んでいる 合唱

「エリアを呼んでいる」

##### c 一人の者が走りより 朗唱

一人の者が走り寄り、海綿をとって酸い葡萄酒を含ませ、  
葦の棒につけて飲ませようとした。人々は言った。

##### d までエリヤが助けに来るか 合唱

「までエリヤが助けに来るかみていよう」

##### e イエスは大声で叫び 朗唱

しかし、イエスは大声で叫び死なれた。

62 **この世を去る時** コラール

この世を去る時 離れないでください。  
死の苦しみの時 守ってください。  
恐れと不安が囲む時も  
この怖い淵より引き出してください。

63a **その時神殿の垂れ幕が** 朗唱・合唱

その時、神殿の垂れ幕が上から下まで二つに裂け、  
地震が起こり、墓が開いて、  
眠れる聖者たちが生き返った。  
そしてイエスの復活のあと墓から出て、  
聖なる都に出、多くの人に会った。  
イエスを見張っていた人たちは地震や  
いろいろな出来事を見て、非常に恐れ、言った。

b **まことにこの人は** 合唱

「まことこの人は神の子であった。」

c **ガリラヤからイエスに従い** 朗唱

また、ガリラヤからイエスに従い、世話をしていた婦人たちがいた。その中にはマグダラのマリア、ヤコブとヨセフの母マリア、ゼベダイの子らの母たちがいた。  
夕方になり、アリマタヤの金持ちでヨセフスというイエスの弟子がいて、ピラトのもとにイエスの遺体を引き取りたいと願ひ、ピラトは渡すように命じた。

64 **夕暮れの涼しい時** アリア・バス

夕暮れの涼しい時 アダムのはらわられた。  
夕暮れに 救い主は 打ち勝たれた。  
夕暮れにはとが オリーブの葉をくわえてやってきた。  
おお美しい時、おお夕暮れの時、神との平和が成った。  
イエスが十字架を負われたから。  
イエスは安息につく。  
ああ愛するもの願えよ。  
行ってイエスの遺体を受け取れ。  
おお救いの尊いなきがらよ。

65 **わが心をきよめよ** アリア・バス

わが心をきよめよ イエスをわが心の内なる墓に葬ろう。  
イエスはいまやわが心の内に、  
永遠の甘き憩いに休まれる。  
この世よ去れ、イエスを迎えよう。  
心をきよめイエスをわが内なる墓に葬ろう。

66-68 **埋葬・哀悼**

66 **ヨセフは遺体を受け取り** 朗唱

a ヨセフは遺体を受け取り、亜麻布に包み、  
彼の新しい墓に納め、  
入り口には大きな石を転がしておいて、立ち去った。  
そこにマグダラのマリアともう一人のマリアが墓を向いて座っていた。  
あくる日準備の日の翌日 祭司長とファリサイ派の人がピラトのもとに来て言った。

b **主よ、あのまどわす者が** 朗唱・合唱

主よ、あのまどわす者が言っていました。

「わたしは三日後によみがえる」と  
だから、三日目までは彼を見張るように、  
そうしないと弟子たちが遺体を盗み  
イエスは「死から復活した」と言いふらすでしょう。  
イエスは復活したとすると  
前よりももっとひどいことになっていくでしょう。

c **ピラトは言った** 朗唱

ピラトは言った「番兵を出そう。行って見張らせよう。」  
番兵は行って墓を固めて石に封印した。

67 **イエスよおやすみなさい** 朗唱・合唱

主は眠りにつかれた  
- イエスよおやすみなさい  
我らの罪がもたらした苦しみは終わった。  
- イエスよおやすみなさい  
おお聖なるむくろ 見よ わが懺悔の悲しみを  
わが罪がもたらした苦しみを  
- イエスよおやすみなさい  
救いのための十字架につきぬ感謝をささげます。  
- イエスよおやすみなさい。

68 **我ら涙してひざまずき** 合唱

我ら涙してひざまずき  
墓のあなたに呼びかけます。  
安らかにおやすみください。  
お休み疲れたみからだよ  
あなたのみ墓と墓石は  
悩める心には心地よい憩いの枕、魂の憩い、  
満ち足りて眠りにつくでしょう。

参考歌詞

杉山 好 「バッハ大全集6」 マタイ受難曲 音楽の友社  
1955. 2. 1②  
國井健宏 バッハ:マタイ受難曲 BWV244 歌詞対訳  
[pacem.web.fc2.com/lyrics/bach/matai\\_1.htm](http://pacem.web.fc2.com/lyrics/bach/matai_1.htm) 同 2.htm

歌詞訳 山城順 20220331/20220125/2020330/20191115